

三陸復興国立公園 着地型企画 NO. MS05 級 ウォーク中		(GP)	お楽しみ累積歩行距離		東京駅基点 東海道新幹 線営業キロ
コース名	みちのく潮風トレイル分割踏破 約700km		NO	歩行km	累積km
	第2回寺下から小船戸海岸・種市・侍浜 41km3コース		01	9.35	9.35
05きのこ屋から侍浜・高家川・八木港・宿戸駅		02	19.74	29.09	28.8
歩行距離18.72km 歩行時間5時間30分 休憩探勝1時間20分		03	12.76	41.85	
予備時間10分 全行程7時間00分 最大標高差93m		04	9.73	51.58	
往路アクセス なし		05	18.72	70.30	小田原 83.9
復路アクセス 基本計画は宿戸駅1615頃-JR-1700頃久慈駅-徒歩約5分-宿		06	12.35	82.65	山陽岡山 732.9

(GP) パーク地球の息吹およびその自然遺
産や生態系と人々の共生につ
いて学ぶ場所(大地の公園)

約700	732.9
------	-------

宿戸駅ゴール 15:30

大浜踏切 道路と浜をつなぐ踏切は海に生きる人々の生活の道です。

JRと海の展望 大浜踏切 昭和8年 津波記念碑

八木港 旧藩時代より三陸沿岸の寄港地で、荒天時避難で寄港する船舶が多かった。最近では昭和48年から水産物の近代化整備を開始。昭和56年に全面供用開始後取り扱い貨物量は飛躍的な伸びを示し、昭和60年大型漁船に対応した整備を進め、北港地区に漁船用大型岸壁5.5mの建設が終了し、昭和63年に供用開始。平成3年以降、南港地区などの港湾再整備と北港地区の親水性緑地の整備が決定。

清光館跡 民族学の創始者、柳田国男(明治8年~昭和37年)が徒歩で三陸海岸を旅した時に宿泊した宿「清光館」の跡地。

有家駅 ホームには津波に流された後に新しく建てられた駅舎があり、訪れた人が自由にメッセージを書く「有家駅ノート」があります。

特集 源義経

西暦	義経スポット年表(平安時代末期から鎌倉時代初期の武将)
1159	河内の源義朝の九男として生まれる。幼名は牛若丸
1169?	1160年平治の乱で父を失い、平氏により鞍馬寺に幽閉される
1174?	義経は源氏の血をひくと知り、剣術の修行で鞍馬寺を追われ奥州に下る
1184	頼朝の命で源(木曾)義仲を討つ。一ノ谷で平氏に勝利
1185	壇ノ浦の戦いで平氏に勝利するも、義経の鎌倉入りを許されず
1186	妻の静と共に青年時代を過ごした陸奥平泉の藤原秀衡に逃れる
1187	秀衡は頼朝から義経庇護と責められる。同年秀衡没
1188	頼朝は宣旨を下し跡継の泰衡と藤原基成に義経をとらえる指示を出す
1189	泰衡は衣川の義経を襲い討つ。4月30日義経と妻の静御前、4歳の女兒は自刃。その年、1180年からの内乱(治承・寿永の乱)最後の戦争「奥州合戦」で泰衡は頼朝に敗れ奥州藤原氏は滅亡した

義経不死伝説

優れた軍才ゆえに兄頼朝に追われて自刃した義経の生涯に、人々が同情を寄せその心理現象は判官鼻頂(はんがんびいき義経伝説では伝統的にぼうがんと呼ぶ)と言われた。義経の生涯は英雄視して語り継がれ、客観的な視点を欠いた義経像が形成された。「義経には影武者がいたから生き延びた」といわれる不死伝説は北行伝説に継がれた。

『義経北行伝説』ルートの紹介

伝説は平泉周辺~気仙~東野~上閉伊~宮古~久慈の海岸線に広がる。伝説の足跡は一行が宿泊や休憩に立ち寄ったもの、風呂や穀物を借り入れたという口伝と証文、来訪に当たり神社を建立したり、巨岩巨石などの由緒など多種多様です。

義経北行ルートと『みちのく潮風トレイル』

伝説や民話はエコツーリズムの貴重な観光資源です。義経北行伝説の足跡は、トレイルコースと、偶然にも同じか付かず離れずの区間があります。伝説スポット(ロマンスポット)は釜石・大槌・宮古・山田・岩泉・普代・久慈にあり、今後マップで紹介します。

田子の木歩道

遊歩道の道幅は狭いが、自然林と春から夏にかけてハマギクなどの山野草の開花、および荒々しい海岸の景観が魅力。

侍石(義経北行伝説スポット)

太平洋にせりだした花崗岩の石畳。「義経北行伝説」では源頼朝の追手から逃げるため侍石付近に舟から上陸して逃避行を続けたと言われる。また、1614年津波被害の時救済を指揮した南部藩藩主が休憩した場所。侍浜地区は義経伝説ゆかりの地

